６．労働市場

マクロ経済で習うこと

中心はＧＤＰ
（支出の内訳）
ＧＤＰ＝消費＋住宅投資＋設備投資+在庫投資＋公共投資＋政府支出＋輸出－輸入
（時系列）
ＧＤＰ＝経済成長＋景気循環

市場	生産物市場	貨幣市場	労働市場
供給	企業	マネーサプライ	労働者 （失業率）
需要	消費・投資	貨幣需要	企業
価格	物価 （消費者物価 卸売物価）	利子率 （国債利回り）	賃金 （雇用者所得）

２種類の失業

自発的失業　どんなに景気がよくなってもなくならない失業。職探しのための失業（摩擦的失業）。プライドが高くて安い賃金で働きたくないことによる失業など。自発的失業による失業率を自然失業率という。

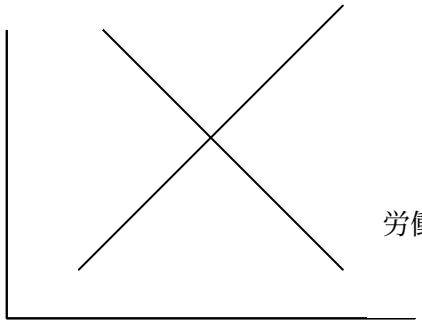
非自発的失業　どんなに安い賃金で働こうとおもっても職がない失業。

完全雇用　非自発的失業者がいない状態。

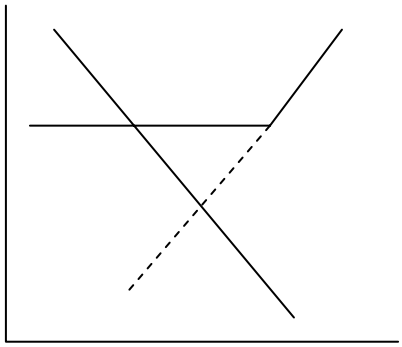
新古典派　　ケインズ

賃金

賃金　　労働供給曲線



労働需要曲線



雇用量　　雇用量

古典派の労働市場の考え方

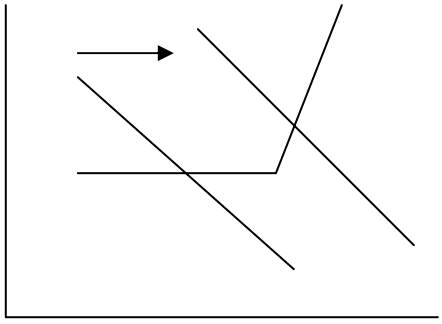
市場メカニズムが働いて常に完全雇用が達成されている。

ケインズの労働市場の考え方

ケインズは賃金の下方硬直性を仮定する。

賃金の下方硬直性があると非自発的失業が生ずる。

非自発的失業をなくすには、需要を増やす必要がある。



問１

古典派またはケインズ雇用理論に関する次の記述のうち、妥当なものはどれか。

【地方上級・平成６年度】

１　古典派雇用理論によると、賃金は下方硬直性があるので、労働需要が減少しても労働者は名目賃金を下げるのに同意しない。

２　古典派雇用理論によると、労働者がある賃金で働くことに同意しても、労働需要が少ないために失業することを摩擦的失業という。

３　ケインズ雇用理論によると、雇用量は労働需要と労働供給の交点で決まり、交点は常に完全雇用の状態を保っている。

４　ケインズ雇用理論によると、有効需要の大きさが不十分であると、不完全雇用の状態になる。

５　ケインズ雇用理論によると、完全雇用の均衡が自動的であると、摩擦的失業や非自発的失業は存在しない。

問２

次の中で、自然失業率に含まれない失業はどれか。一つ選べ。【マクロ経済学・入門】

（１）　非常に高い技能は持ってはいるが、プライドが高いため、企業が支払ってくれる賃金よりも高い賃金でないと働く気のない人

（２）　ほとんど働く気はないが、失業保険がもらえるのでとりあえず職探しをしているふりをしている人。

（３）　転職の際に、次の仕事が始まるまで一時的に無職でいる人。

（４）　どんな賃金水準でも働く気があるが、いつまでたってもどこの企業にも雇われない人。